

# 平成15年度OECC海外環境協力セミナー(その1)に参加して

住友重機械工業(株)プラント・環境事業本部  
海外営業部長

沢田 謙二

平成15年6月19日(木)午後、虎ノ門パストラル新館5F「オーク」において、「ISO/TC224の動向について」と題するセミナーが開催された。同セミナーは、以下の4つのテーマで講演が行われた。

1. ISO/TC224の動向について
2. ISO/TC224と下水道の対応について
3. ISO/TC224と上水道としての対応について
4. ISO/TC224制定の国際ビジネスへの影響

今回聴講させていただいての感想を以下に述べる。

## (1) ISO/TC224の動向について

ISO/TC224とは? から始まり、目的、規格化対象、前提条件、経緯と今後、日本の対応状況等全般的な説明であった。

私のように、この分野の初心者にとって、TC224とは224番目の委員会を意味すること、4つのワーキンググループから構成されていること、最初に規格化の話を持ち出したのはフランスであること等、その概要を理解するのに役立った。

## (2) ISO/TC224と下水道の対応について

4つのワーキンググループのうち、WG4で検討されている下水道についての日本の対応状況について紹介された。

規格化に当たって、その中心的役割を果たすとされる業務指標(PI)の提案件数から判断すると、この分野における日本側の並々ならぬ関心の高さを感じた。

## (3) ISO/TC224と上水道としての対応について

話の内容より、講演者である石井所長の話術の巧みさが印象的であった。失礼ながら、時々ダジャレを交えて、聴講者が飽きないように、また分かりやすいように話をされたのには感心した。

この領域は、ビベンディ、オンデオ、テムズウォーターという巨大大手企業が寡占化を狙っており、この規格が制定されれば、彼らにとっては願ってもない日本市場への参入のチャンスになるような気がする。

## (4) ISO/TC224制定の国際ビジネスへの影響

海外営業を担当している私にとっては、本日の講演の中では最も興味深く、また言葉としても最もなじみ深い内容であった。

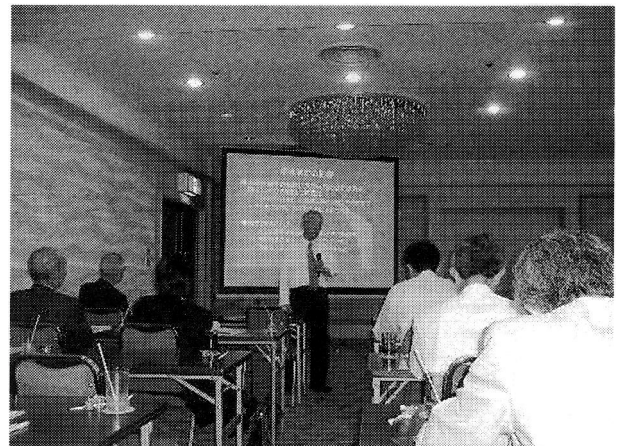
講演の中で、公益事業への民間資金導入のため

の規制緩和の結果として、米国内の企業が仏・独の3社(ビベンディ、オンデオ、RWE)に買収され、草刈場と化した米国の事例は、明日の日本の姿を暗示しているという提言はショッキングであり、日本で環境設備事業に携わる一企業人として考えさせられた。

## (5) 私見

今回のセミナーは、2006年7月発行を目指してISO規格化検討が進められている「飲料水供給と下水道に関するサービス活動の標準化」についての日本の取組状況や制定後の国内市場への影響について焦点を当てた講演であった。

この規格の適用は、任意とは言うものの各講演者の発言にもあったが、制定後には、日本国内市場はもとより、日本が資金援助を行う開発途上国へのODA案件に対しても、少なからず影響力を与えるのではないかと思う。



難解なISO/TC224を巧みな話術で分かりやすく解説する講師に聴き入る参加者

従来、日本の上下水道事業での民間企業の役割は、設備供給が主であり、維持管理と言っても機械設備のメンテナンスが主体であった。

今後は、これらに加え、事業運営に関するノウハウを蓄積することが要求されてくるであろう。しかし、これは、一朝一夕に構築できるものではなく、官側の協力も仰ぎながら各企業がその蓄積に向けて努力が求められる。日本のみが、例外ということは許されない時代になってきている。

(さわだ けんじ)